

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第90号

平成31年6月11日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

電通大プロジェクト・楠正行ポスターセッション

講義、ゆかいの地を訪ねる現地学習始まる！

渡辺橋・小楠公墓・四條畷神社・和田賢秀墓、そして湊川神社

● 5/8 学生と対面、カルタ遊び ●

電通大第3弾！ 社会プロジェクト実習授業・楠正行ポスターセッションがスタートしました。

5月8日(水)、16時50分から18時20分の第5限、大阪電気通信大学四條畷学舎10号館1階103教室で、木子香教室16名の学生と四條畷楠正行の会の初めての対面となりました。

この日、四條畷市からは、鈴木産業振興課長、中村魅力創造室課長、安田生涯学習課長の3人も出席する中、学生一人一人の自己唱歌と扇谷からはクライアントとしてのお願い、具体的には楠正行ポスターセッションについて詳しく説明しました。

この後、昨年度制作した「くすのきまさつらかるた」を使ってカルタ遊びに興じながら、楠正行の人間像や生涯にぼんやりと触れてもらいました。

四條畷楠正行の会土井企画委員が字札を読み上げ、学生が「はい。」と手を伸ばすたびに、扇谷からその絵札に関する一言を加え、学生の皆さんには大いに興味を持っていただいたようです。この日、会からは国府事務局長、山添さんも参加しました。

● 5/11 渡辺橋・四條畷神社他 ●

5月11日(土)、午後1時、天満橋のキャッスルホテル前バス停に、電通大学生16名と木子先生、市職員2名、楠正行の会4名が集合して、第一回の学外学習を行いました。

この日、土曜日にもかかわらず、四條畷市からは、青田産業振興課主任と銭谷魅力創造室課員の二人も参加、学生

と一緒に扇谷の説明を聞き入るとともに、デジカメでの記録撮影や交通の安全確保等に協力していただきました。

そして、何よりも小楠公義戦之跡碑の前では、扇谷の説明をくいるように聞き入る学生が印象的でした。説明が終わると、スマホやデジカメで、同碑を撮る学生の動きに強い意欲を感じました。

その後、八軒屋浜の船乗り場に降り、正行時代の大川・渡辺橋に思いをはせてもらいましたが、同碑文にも記されているように、「天や地や山や川は何時までも変わらぬものと思っておりますが、この天地山川も昔のままではなく、当時の橋も岸もみな変わっており」と、中世・南北朝期の渡辺橋を想像することは難しいことでした。

渡辺橋を後に、地下鉄とJRで四條畷駅に戻った一行は、同駅の改札口横にある正行銅像を鑑賞しました。

この銅像は、正行が吉野を訪れ如意輪寺本堂の扉に辞世の歌を記した光景を描いたもので、左手には矢立を、右

手には筆を持っている姿が描かれています。刀を持たず、筆を持つ姿に、正行の博愛精神・平和主義が読み取れるのではないかと扇谷の説明に、多くの学生は納得の様子でした。

小楠公墓所では、樹齢600年近くなった楠木の云われ、正四位下檢非違使兼河内の守楠公碑の説明に続いて、「増従三位楠正行朝臣之墓」と大久保利通が揮毫した7尺50分の巨石碑について説明しました。

阪神淡路大震災や大阪北部地震でもびくともしなかった巨石碑の基礎に注がれた当時の人々の思いを説明しました。5メートル近く掘り込み、250本の松の杭を打ち込み、その



上に松の生板を敷き詰め、砂礫や石灰で打ち固めた基礎のお陰で、この7メートル50センチもの巨石碑がびくともしないのです、と当時の四条畷の民の楠正行に寄せる思いの深さに、学生は正行の人間像を合わせ理解したようです。



湊川神社境内の正成墓『嗚呼忠臣楠子之墓』に寄せられた人々の思い(使われた石が、御影・白川・和泉と正成の活躍した場所から産出したものを使い、想像上の生物、鼻頂の上に乗る姿。しかも、土台の石には免震構造まで施されていたこと)にも触れながら、正成・正行が、如何に後世、多くの人々から慕われたかを物語るエピソードとして紹介しました。

サプライズ！ 扇谷の熱唱

小楠公墓所から真東ちょうど1キロメートルを歩き、着いた四條畷神社では、櫻井訣別の父子像、久子の方訓戒の母子像、御妣神社創建の話等をした後、休憩所に移り、扇谷作詞「楠正行」を扇谷が熱唱するというサプライズ?! このサプライズに、多くの学生は、何が始まったのか、と半信半疑で聞き入りましたが、年齢の割に大きな声の出る扇谷の歌唱力に少しは感心した様子でした。

その後、南野のまちなかを紆余曲折しながら、和田賢秀墓に移り、「歯神さん」の謂れや、和田賢秀の最期の場면을説明し、この日の学外学習は無事終了しました。

● 5/29 講義「正行概論」 ●

5月29日(水) 16:50~18:20は、10号館103教室で、扇谷による第1回講義「正行概論・楠正行の人間像を繙く」を行いました。

講義の骨子は、①正行が生きた時代背景、②正行のプロファイル、③達筆ぶり、④宗教心に篤い、⑤博愛精神、⑥大局観、⑦教養、⑧武士道、⑨無私、⑩誠忠、⑪正行の事跡~肖像画、建水分神社扁額裏書、訶梨帝母天堂、渡辺橋の小楠公義戦の跡碑、国宣、辞世の文章、辞世の歌と扉、宝篋院の正行首塚と義詮墓、朱舜水正行像賛、狩野探幽楠公父子訣別図、観心寺中院、四條畷の戦い、小楠公墓、高山右近日本訣別の書、四條畷神社、楠公父子像、楠公母子像、飯盛山山頂小楠公銅像、和田賢秀墓、正四位下楠公碑、河内名所図会楠正行墳、貝原益軒南遊紀行挿入図、御妣神社、菊水家紋、⑫楠正行の人間像~学び、情け、恋、大志、友、正行の最期と、学生がポスター制作にヒントとなるキーワードのオンパレードとなりました。

● 6/8 現地学習・湊川神社 ●

6月08日(土)は、第2回目の現地学習で神戸・湊川神社を訪れました。

湊川神社神門で教化渉外課の鈴木さんと山岡専門員の出迎えを受け、一同緊張の面持ちでまずは正式参拝に臨みました。

昼食後、山岡学芸員から楠木正成の殉節地(境内西北の地)、



御墓所(『嗚呼忠臣楠子之墓』)、宝物殿と、1時間半にわたって詳細な説明を受けました。宝物殿では常設展示の「大楠公一代記」や大楠公真筆「法華経奥書」、大楠公着用と伝わる「段威腹巻」、横山大観画「大楠公像」等を鑑賞しました。

5月8日の現地学習の最後に学生の皆さんの感想をお聞きしましたが、「正行が尊敬できる武将であることが理解できた。」などと、嬉しい発言に、同行した会のメンバー、木子先生も満面の笑みでした。

学生諸君!素晴らしいポスターを期待しています。

なお、この日、木子先生と扇谷、国府、土井、山添の5人は、同神社の垣田宗彦宮司を表敬訪問し、ポスターセッションご協力へのお礼、8月の同神社の夏祭りでのカルタ大会・紙芝居上映についてもお礼を申し上げました。

(写真:1面上から 渡辺橋・小楠公義戦の跡碑前で/JR 四條畷駅の小楠公像の前で 2面左上から 小楠公墓所で/四條畷神社で櫻井訣別父子像を説明する扇谷と聞き入る学生/和田賢秀墓で/湊川神社社務所売店で販売されている「くすのきまさつらかるた」の前で)

(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)